

ごぞんじですか？ “ボラ基金”

ボランティア活動の
材料を買うことが
できた

基金を使って
新しいイベントが
できたよ



NPO 法人の
立ち上げが
できた

子ども食堂に
手洗い場を
作れた!

平成31年度

大阪市ボランティア活動振興基金・報告

大阪市ボランティア・市民活動センター／大阪市
(社会福祉法人大阪市社会福祉協議会)

1. はじめに

昭和55年から、福祉ボランティアを支援するため『大阪市ボランティア活動振興基金』による助成事業では、平成29年度から新たに「社会参加の空間整備支援事業」と「生徒・学生の福祉ボランティア活動支援事業」の2事業で、年2回申請を実施し、活用の拡充を図りました。

その結果、総額47,549,758円の助成により、169団体を支援することができました。

大阪府ボランティア活動振興基金とは

わたしたちのまち大阪を「人間性豊かな福祉社会」にしていくためには、公的な福祉サービスの充実とあわせて、広く市民の皆さんにボランティアの輪を広げていただくことが大切です。

公的なサービスと、ボランティア活動との協働によって、より大きな福祉効果をあげることができます。ボランティアの自主性を尊重しつつ、その活動を支援するため「大阪府ボランティア活動振興基金」を設置しています。

目次

1	はじめに	2
2	基金を受けてこんな活動ができました!	3
	～平成29年度基金交付のあった団体の事業報告～	
	特定非営利活動法人子どもセンターぬっく	
	こどもひろば	
	ママコミュ!ドットコム	
	NPO 法人 HEALTH SUPPORT HINATA	
	一般社団法人 brk collective	
	特定非営利活動法人 心織	
	特定非営利活動法人スイスイ・すていしょん	
3	説明会・交流会を開催しました。	10
	～平成30年度 助成金説明会・交流会～	
4	平成29年度の交付実績	11
5	もっと基金を知ろう! ～資料～	13
	アンケートの集計結果	
	大阪府ボランティア活動振興基金の種類	
	申請から交付・報告までの流れ	

平成29年度基金交付団体の事業報告

2. 基金を受けてこんな活動ができました!

助成事業名

「居場所の運営ボランティア養成支援事業」

団体名

特定非営利活動法人
子どもセンターぬっく



団体ホームページ

活動内容

子どもシェルター「ぬっくハウス」を運営。
貧困・虐待・非行など、さまざまな事情により居場所がない、概ね15歳～20歳未満の女子の支援に取り組む。

の助成金は、「ぬっくスタッフ・ボランティアの養成講座」の開催に活用しました。ぬっくの活動の理解、虐待・児童相談所に関する基礎知識、思春期の子どもたちへの接し方、具体的な事例を交えたワークなど、シェルターに避難している子どもたちに寄り添うボランティアに必要な知識を高めてもらうことが目的です。

未来ある子どもたちへ

「ぬっくハウス」はあくまでも緊急一時保護の場で、滞在期間は約2ヵ月。退所後のフォローを続ける一方で、さらなる課題も見えてきました。子どもたちが自信をもって社会に出られるよう、子どもシェルター退居後の新たな居場所づくりを検討しています。



みんなの憩いのスペース（ぬっくハウス内リビング）

ひとりぼっちにしない

大阪府の児童虐待相談対応件数が全国1位。ひとりでも多くの子どもたちに将来への希望をもってもらいたいとの思いから、団体の活動が始まりました。

子どもシェルターでは、24時間大人のスタッフが常駐できる環境をつくり、子どもたちに三食手作りの温かいご飯、温かいお風呂、清潔な衣類を提供しています。また、弁護士（通称「コタン」）やぬっくメイト（ボランティア）が、傷ついた心と体を休めた子どもたちが、自分の力で人生を歩めるよう支えています。

よりそう“ひと”を育てるために

現在、ぬっくメイトは30人ほど。退所した子どもを見守っていくにはまだまだ十分とはいえません。今回

事業報告

助成事業名	リーダー育成 これからのボランティア活動を活性化する助成事業「居場所の運営ボランティア養成支援事業」
助成内容	福祉課題の解決を目的とした「居場所」の運営ボランティア養成を支援する助成事業
助成金額	157,887円
設立年月	平成27年9月
活動拠点	北区

助成事業名

「ボランティア活動促進事業」

団体名

こどもひろば



団体 Facebook

活動内容

外国にルーツがある子どもを対象にした日本語支援ならびに教科学習支援を実施している。



国際交流センターでの学習支援のようす

おおきな壁

親の都合で来日し、母国と異なる文化や環境の中で日本語がわからず学校生活や友だち作りにも悩み、学習の遅れや孤立感を味わっている外国にルーツのある子どもたちが、大阪にはたくさんいます。子どもたちが、日本の社会で生き抜く力をつけ、自由に進路選択ができるように、30人ほどボランティアスタッフが、学習支援や受験や進路相談などの支援をしています。

仲間とのきづなを深める

こどもひろばで出会った仲間たちが集える「同窓会」。子どもたちが楽しめるよう、ボランティアスタッフが企画します。今回の基金では、子どもたちと郊外での自然体験を交えた「同窓会」に活用しました。子どもたち同士はもちろん、ボランティアスタッフとの久しぶりの再会に、みんな笑顔で一日を過ごすことができました。

こころのふるさとを目指して

子どもたちが安心できる居場所は、信頼しあえるボランティアによって作られます。子どもたちに関わるボランティアには、語学力ではなく、子どもたちの顔の表情やしぐさなどから、さまざまな心の変化やサインを見落とさずに寄り添う力を求めています。こどもひろばは、子どもたちにとっていつでも帰ってこられる場所であり、心の支えになっています。

助成事業名

「災害時の活動者養成事業」

団体名

ママコミュ!ドットコム



団体ホームページ

活動内容

子育て中の母親が、子育てから得られる経験とスキルを地域で役立てるために、自らが主体となってさまざまな学びの場を提供している。

子どもを守ること

昨今、毎年のように日本のどこかで災害が起っています。大阪も、いつ被災するかわからない状況なので備えようと思っても、妊娠中や、子どもが幼い、日中は仕事がある、引っ越して来て間もないなどさまざまな理由で、地域の防災訓練に参加しなくてもできない子育て家庭（親子）は、少なくありません。

参加できる形に

今回の助成事業では、『おやこ防災サロン「食べる×防災セミナー」』と題した講座で、子育て家庭（親子）が抱える災害リスクを共有し、いろいろな防災情報の中から自分にとって重要な情報を選び出す力と、子どもたちが防災意識を高められるプログラムを実施。会場代、講師謝礼金、チラシ作成費、消耗品費、発送料などに活用しました。

開催時期では、これまで防災に関わる機会が少ない子育て家庭（親子）が参加しやすいよう、子どもの夏休み期間や土日に地域の公共施設等を使用するなどの工夫を凝らしています。

好奇心の“タネ”まき

非常食を活用した料理教室や防災ゲームにより、楽しく災害に対する正しい知識が身につくので、『災害は怖い』というイメージから、備える力=防災意識が向上します。将来の地域防災の担い手となる子どもたちが育つことは、安心して暮らせる地域づくりにもつながっていきます。



講座の様子

事業報告

助成事業名 ボランティア活動の拡大
「ボランティア活動促進事業」
助成内容 複数区で福祉ボランティア活動を行う団体の活動を支援する助成事業
助成金額 50,000円
設立年月 平成17年4月
活動拠点 天王寺区（複数区からの参加がある活動）

事業報告

助成事業名 ボランティア活動の拡大 これからのボランティア活動を活性化する助成事業
「災害時の活動者養成事業」
助成内容 防災を含めた災害に関するスキルを身につけるための
研修等の開催を支援する助成事業
助成金額 100,000円
設立年月 平成25年4月
活動拠点 天王寺区

助成事業名

「地域福祉・市民活動協働推進事業」

団体名

「NPO 法人
ヘルスサポート ヒナタ
HEALTH SUPPORT HINATA」



団体ホームページ

活動内容

医療に関する専門性を持ち、地域で健康相談・見守り支援・居場所づくりに取り組む。



農園での野菜作り

生業をめざす

次に目指すは、収穫した野菜等を活用したビジネスの実現に向けて、参加者自身が事業を企画できるよう支援を続けることです。収入が得られると、参加者の生きる活力になります。

なかまづくり

「男性の高齢単身者が多い」という特徴ある地域で、日常の見守り支援や健康相談事業の活動で知り合った男性の高齢単身者たちの孤立を防ぐため、農作業の機会をつくり、仲間とともに野菜等を育てる喜びや収穫の喜びを感じてもらおう活動が始まりました。

また、収穫した野菜等を使用した調理実習への参加を促し、そこで交流する人たちとコミュニケーションをとることで、協調性が養われ、心が豊かになる活動に助成金が活用されました。

大阪市の約46%が一人暮らし世帯

大阪市の一人暮らし世帯は 599,400 世帯。一般世帯の 45.6%にあたり、そのうち65歳以上の単独世帯は 192,800 世帯 32.1%にのぼります。単身者の課題である、社会的孤立を防ぐことで、心の健康が保たれ、健康的な日常生活を送れます。

助成事業名

「地域福祉的な非営利法人支援事業 初動期支援」

団体名

「一般社団法人
brk collective(ブレコ)」



団体ホームページ

活動内容

アートを媒体にして地域住民をつなぎ、多彩なコミュニケーションを生み出す地域密着型のアートプロジェクトを展開している。

新しいものを創り出す

事業の拠点となるエリアは、市内でも高齢化率、空き家率が高くとともに高く、都市過疎化によるコミュニティの崩壊などの問題を抱えています。新しい地域コミュニティを創り出すために、地域、学校、行政と芸術分野の専門化が連携・協働し、世代を超えて多様な人が集える居場所づくりに取り組みました。

アプリを支援の入り口に

居場所の創出のために、はじめに取り組んだのはリサーチ活動です。地域の会合や地域の福祉施設や地域団体、活動団体、行政へヒアリングを重ね、つながりをつくることから基盤を固めました。「初動期支援」は、法人格取得3年未満の立ち上げ期の団体を応援する助成金。リサーチ活動、活動を広く情報発信するホームページの立ち上げに向けたミーティング、多様な団体との連携の方法や協働体のしくみの勉強会（カルチュラルマッピング）、スタッフ人件費などの経費に助成金を活用しました。

ホップ ステップ ジャンプ!

この1年でつながりができた地域住民とともに、地域に開かれた「ものづくりの場」となる拠点を整備し、世代や立場を超えて多様な人が集まる居場所を目指していきます。



勉強会のようす

事業報告

助成事業名 ボランティア活動の拡大「地域福祉・市民活動協働推進事業」
助成内容 福祉課題の解決を共通の目的とし、複数の団体が主体となり、異なる強みや得意分野を活かした取り組みを支援する助成事業
助成金額 445,500 円
設立年月 平成 24 年 10 月
活動拠点 西成区

事業報告

助成事業名 ボランティア活動の拡大「地域福祉的な非営利法人支援事業・初動期支援」
助成内容 法人立ち上げ 3 年未満の団体の運営基盤整備を支援する助成事業
助成金額 1,000,000 円
設立年月 平成 27 年 7 月
活動拠点 西成区・生野区

助成事業名

「福祉課題に取り組む調査研究支援事業」

団体名

「特定非営利活動法人
心織（こころ）」



団体ホームページ

活動内容

高齢者施設、障がい者施設、児童デイサービスなどでの動物介在療法（ドッグセラピー）の実施や、わんわんパトロール、セミナー・ワークショップの開催など、愛犬とともに活動を行う。

✦ 犬に秘められたパワー

介助犬（肢体不自由者の日常生活動作のサポートをする犬）全国で 66 頭が実働。盲導犬（視覚障害者の安全で快適な歩行をサポートする犬）全国で 941 頭が実働。聴導犬（耳の不自由な方に音を知らせて生活をサポートする犬）全国で 67 頭が実働。人を支える犬が数多く存在する中で、高齢者の QOL・ADL の向上を目的とする動物介在療法に関する調査研究に取り組みました。

✦ 認知の壁

動物介在療法の認知度はまだまだ低く、今回の調査では、まず調査研究に協力する高齢者施設が市内1カ所しか見つからないという大きな壁がありました。高齢者施設を始め、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士などの専門職であっても認知度が低いことを実感する結果となりました。



動物介在療法で活躍するセラピー犬

✦ 必要とする人のために

動物介在療法を研究する大学教授やその分野に長けた協力者とともに、セラピー犬がもたらす効果に関する調査を進めることができました。さらに、今回の調査報告書は、動物介在療法を普及する資料として活用できるものとなりました。

助成事業名

「区の実情に応じた助成事業 淀川区」

団体名

「特定非営利活動法人
スイスイ・すていしゅん」

活動内容

人権文化を育む教育の創造と人権のまちづくりを推進する活動

✦ 地域でできること

この地域では、子ども会活動がなくなり、子どもが集まる場所がなくなっていた。そこで「かしまスイスイ子ども食堂」を開設し、家庭での食事が十分に保障されていない子どもや孤食になりがちな子どもたちが、安心して食事をし、人と一緒に食事をするこの楽しさを感じられる居場所をつくりました。

✦ 思わぬ効果も

月1回の活動は、回を重ねるにつれて参加者が増えていき、会場の定員を大きく上回るようになりました。当初は想定していなかった、子どもと一緒に参加する保護者同士が食事をしながら情報交換をする場になるなどの効果も感じています。

✦ 安定した安心

スタッフは教員経験者や民生委員、福祉施設職員、栄養士など多彩で、子どもたちの課題をキャッチできる体制です。また、食材は「ふーどばんく OSAKA」からの提供があり、安定した食堂運営と、子どもたちが安心できる居場所を心がけています。



事業報告

助成事業名 ボランティア活動の拡大 「福祉課題に取り組む調査研究支援事業」
助成内容 福祉課題の発掘や解決のために行う調査・研究を支援する助成事業
助成金額 214,200 円
設立年月 平成 26 年 4 月
活動拠点 西成区

事業報告

助成事業名 ボランティア活動の拡大 「区の実情に応じた助成事業」
助成内容 各区・地域のニーズに応じた福祉ボランティア活動を支援する助成事業
助成金額 150,000 円
設立年月 平成 16 年 6 月
活動拠点 淀川区

3. 説明会・交流会を開催しました

市内の地域福祉に貢献するボランティア・市民活動活動団体や事業に役立つ「基金」の助成金の存在を知らない、あるいは「基金」をどのように活用し事業を展開していいのかわからないといった団体も少なくありません。大阪市内の団体へより広く「基金」を周知し、活用を進めるために「基金」の説明会・交流会を開催しました。

交流会では、活動事例発表を行った2団体を交えて、各団体の活動紹介のあと、普段の活動から感じることなどをテーマに意見交換しました。

日時 平成30年2月27日（火）
 ①午後1時30分～5時（活動事例発表・説明会・交流会）
 ②午後6時30分～8時（説明会のみ）

会場 大阪市立社会福祉センター 1階代7会議室

対象 福祉ボランティア活動を行う非営利の活動団体等、本助成金の申請対象団体

参加者 ①41人 ②31人

【活動事例発表団体】

非営利活動法人 ところ

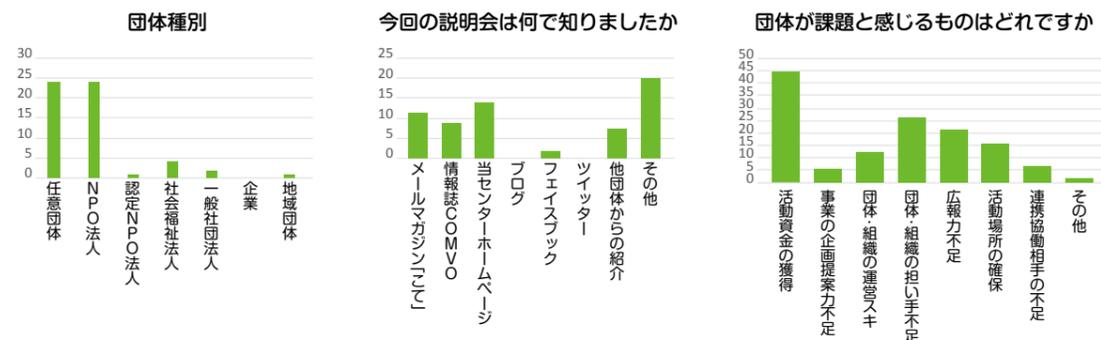
<平成28年度助成事業：地域福祉的な非営利法人支援事業初動期支援>

非営利活動法人 日本病院ボランティア協会

<平成28年度助成事業：福祉課題に取り組む調査研究支援事業>



【参加者アンケート結果】



4.12事業 169団体に交付しました

	事業名	件数	金額
リーダー育成	<これからの福祉ボランティア活動を活性化する助成事業> 「企業等が中心となつて行う福祉ボランティア活動団体支援事業」	4団体	800,000円
	<これからの福祉ボランティア活動を活性化する助成事業> 「居場所」の運営ボランティア養成支援事業」	4団体	684,940円
参加しやすい仕組みづくり	<これからの福祉ボランティア活動を活性化する助成事業> 「社会参加システムの構築支援事業」	1団体	2,844,360円
	<これからの福祉ボランティア活動を活性化する助成事業> 「社会参加の空間整備事業」	第1回 1団体	2,050,000円
		第2回 2団体	3,850,000円
		計 3団体	5,900,000円
	<これからの福祉ボランティア活動を活性化する助成事業> 「生徒・学生の福祉ボランティア活動支援事業」	第1回 1団体	270,314円
		第2回 1団体	109,000円
計 3団体		379,314円	

事業名	件数	金額
「ボランティア活動促進事業」	35 団体	1,647,000円
<これからの福祉ボランティア活動を活性化する助成事業> 「災害時の活動者養成事業」	1 団体	100,000円
「地域福祉・市民活動協働推進事業」	6 団体	2,594,300円
「地域福祉的な非営利法人支援事業 初動期支援」	6 団体	4,886,000円
「地域福祉的な非営利法人支援事業 コミュニティビジネス支援」	2 団体	2,000,000円
「福祉課題に取り組む調査研究支援事業」	8 団体	2,487,050円
<これからの福祉ボランティア活動を活性化する助成事業> 「区の実情に応じた助成事業」	96 団体	23,090,120円

ボランティア活動の拡大

【資料】 アンケートの集計結果
大阪市ボランティア活動振興基金の種類 申請から交付・報告までの流れ



アンケートの集計結果

(1) 調査の目的

平成27年度から「これからの福祉ボランティア活動を活性化する助成事業」として事業枠が5事業から12事業に拡大されたことを機に、毎年助成事業に関するアンケート調査を実施し、調査結果の分析や評価をしています。これにより、活動団体の課題や問題点などの現状を把握・整理し、よりよい助成が行えるよう活用していくものです。

(2) 調査方法

調査期間：平成30年4月2日(月)から4月27日(金)

調査方法：郵送によるアンケート調査

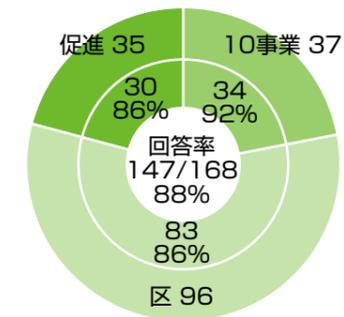
調査対象：平成29年度交付団体：169団体

※調査にご協力頂きました団体のみならず、ありがとうございました。

(5) 交付団体についての調査結果のまとめ(抜粋)

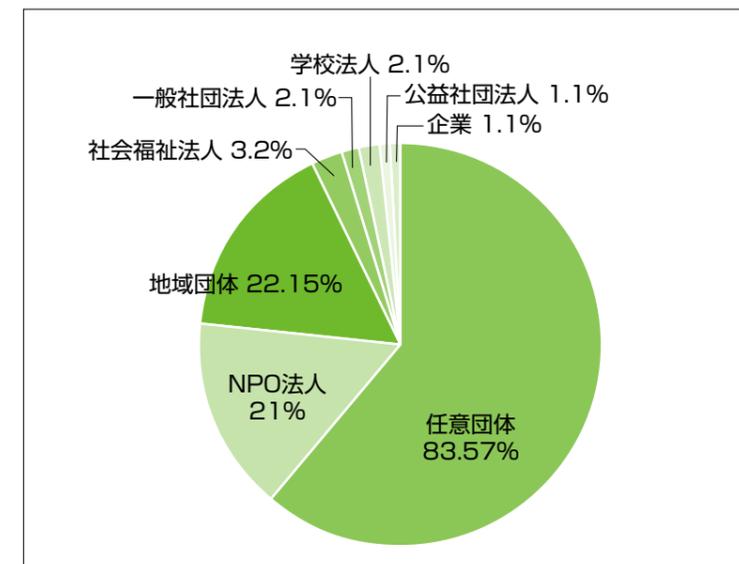
アンケート回答結果

外円-対象団体数
内円-回答数



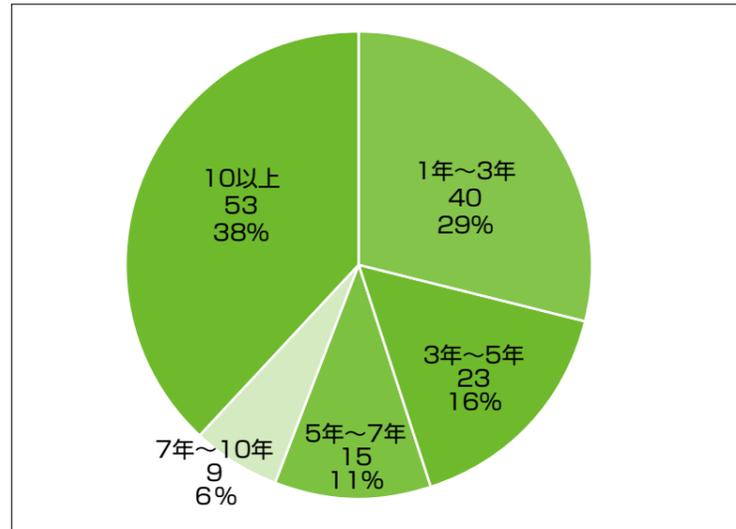
団体種別	対象団体数	回答数	回答率
10事業	37	34	92%
区	96	83	86%
促進	35	30	86%
合計	168	147	88%

① 団体種別



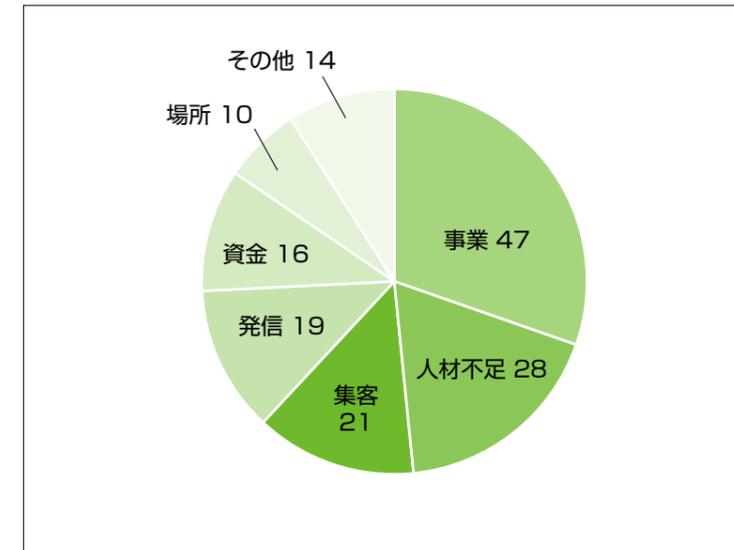
団体種別	合計	内訳		
		10事業	促進	区
任意団体	83	8	24	51
NPO法人	31	20	4	7
認定NPO法人	0	0	0	0
社会福祉法人	3	1	0	2
一般社団法人	2	1	1	0
公益社団法人	1	1	0	0
一般財団法人	0	0	0	0
公益財団法人	0	0	0	0
学校法人	2	2	0	0
企業	1	1	0	0
地域団体	22	2	1	19
医療法人	0	0	0	0
未回答	2	0	0	2
合計	147	36	30	79

② 設立年数



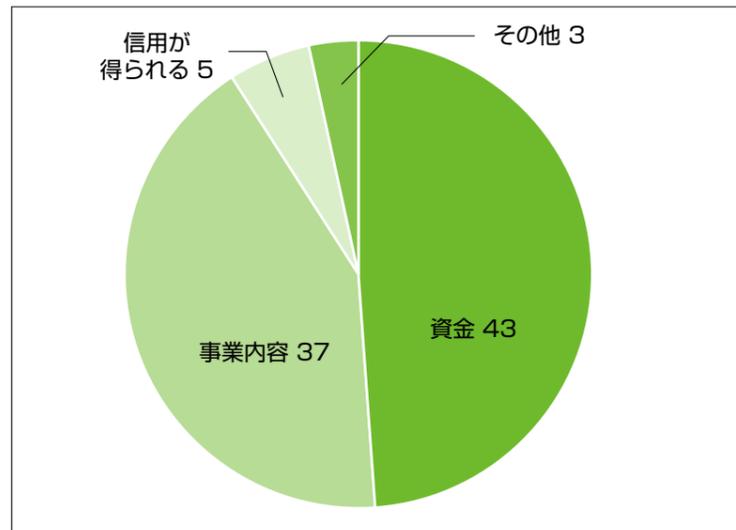
設立年数	合計	内 訳		
		10事業	促進	区
1年未満	0	0	0	0
1年~3年	40	5	1	34
3年~5年	23	10	5	8
5年~7年	15	5	1	9
7年~10年	9	3	3	3
10年以上	53	12	19	22
未回答	7	1	1	6
合 計	147	36	30	82

⑤ 事業達成のうえで課題になったこと



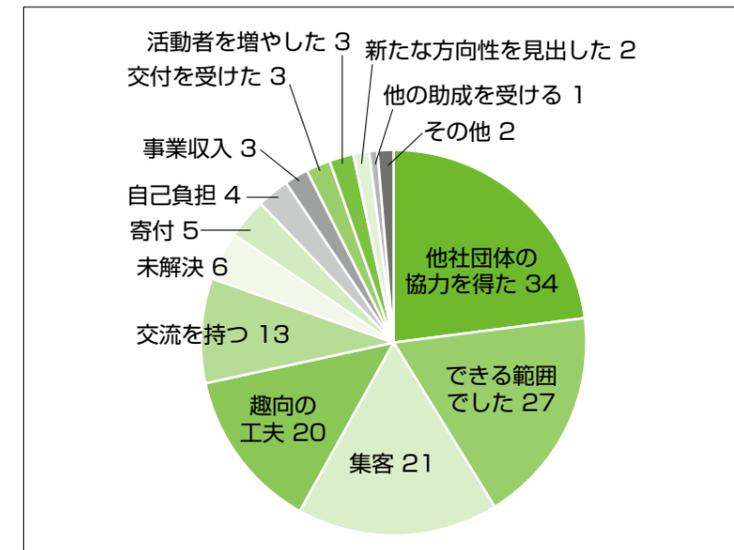
- 〈内訳〉
- 事業 (47)
 - 事業の推進 (17)
 - 組織のスキル不足 (6)
 - 組織の体制 (5)
 - 新たな課題 (5)
 - 計画通りにいかない (5)
 - コミュニケーション力 (5)
 - 事業の継続 (3)
 - 事務処理 (1)
 - 人材不足 (28)
 - 集客 (21)
 - 発信 (19)
 - 資金 (16)
 - 場所 (10)
 - その他 (14)

③ 基金のどの部分に魅力を感じて申請しましたか



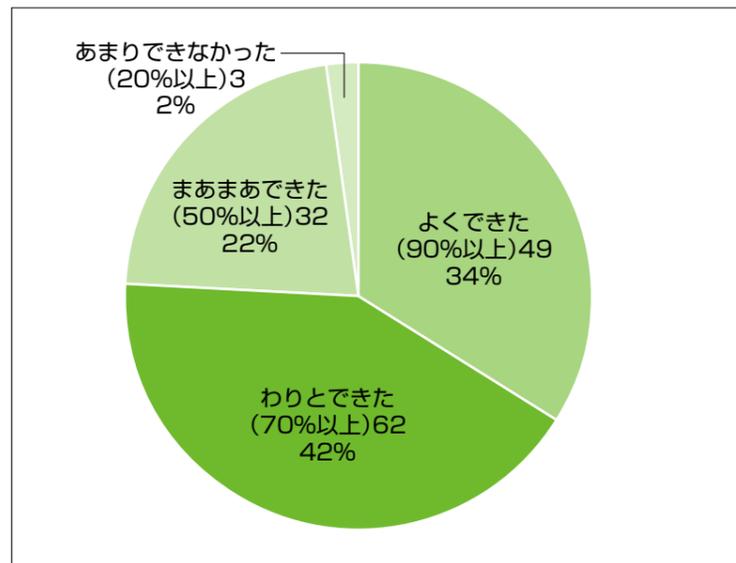
- 〈内 訳〉
- 資 金 (43)
 - 負担の軽減 (17)
 - 費目の充実 (26)
 - { 備品 (9) 会場借上げ代 (5) 整備費 (4) 人件費 (3) 謝金 (2) 交通費 (3) 広報 (1) }
 - 事業内容 (37)
 - 事業が合致していた (21)
 - 事業が多角的だ (16)
 - 信用が得られる (5)
 - その他 (3)

⑥ 課題をどのように乗り越えましたか



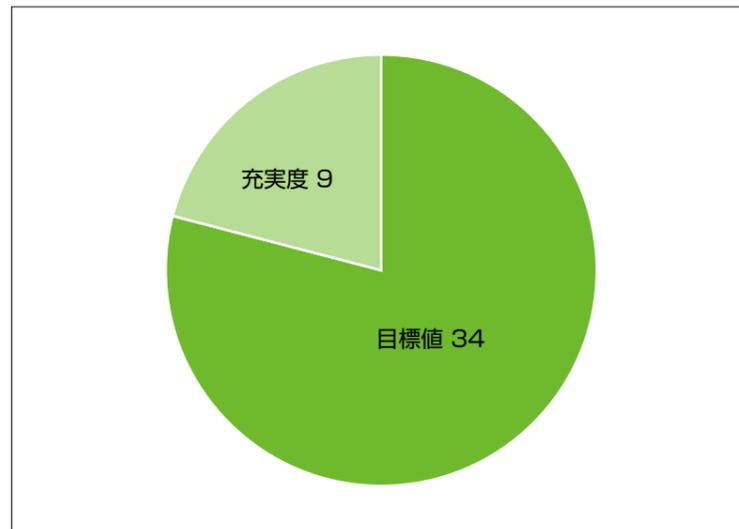
- 団体が抱える課題
- 事業 (48)
 - 他者団体の協力を得た (15)
 - 交流を持つ (8)
 - できる範囲でした (5)
 - 趣向の工夫 (10)
 - 未解決 (4)
 - 広報 (3)
 - 趣向の工夫 (3)
 - 新たな方向性を見出した (2)
 - 活動者を増やした (1)
 - 人材不足 (24)
 - できる範囲でした (11)
 - 他者団体の協力を得た (5)
 - 広報 (3)
 - 活動者を増やした (2)
 - 交流を持つ (2)
 - 趣向の工夫 (1)
 - 集客 (19)
 - 広報 (7)
 - 趣向の工夫 (5)
 - 他者団体の協力を得た (4)
 - できる範囲でした (1)
 - 未解決 (1)
 - 交流を持つ (1)
 - 発信 (19)
 - 広報 (11)
 - 他者団体の協力を得た (4)
 - できる範囲でした (1)
 - 未解決 (1)
 - 交流を持つ (1)
 - 趣向の工夫 (1)
 - 資金 (19)
 - 寄付 (5)
 - 自己負担 (4)
 - 交付を受けた (3)
 - 事業収入 (3)
 - できる範囲でした (2)
 - 広報 (1)
 - 他の助成を受ける (1)
 - 場所 (9)
 - 他者団体の協力を得た (5)
 - できる範囲でした (3)
 - 広報 (1)
 - その他 (10)
 - できる範囲でした (4)
 - その他 (2)
 - 趣向の工夫 (2)
 - 他者団体の協力を得た (1)
 - 交流を持つ (1)

④ 事業目的の達成度



事業目的の達成度	合計	内 訳		
		10事業	促進	区
よくできた (90%以上)	49	10	14	135
わりとできた (70%以上)	62	14	10	38
まあまあできた (50%以上)	32	9	5	18
あまりできなかった (20%以上)	3	2	0	1
まったくできなかった (20%未満)	0	0	0	0
未回答	1	0	0	1
合 計	147	35	29	83

⑦達成できなかったこと



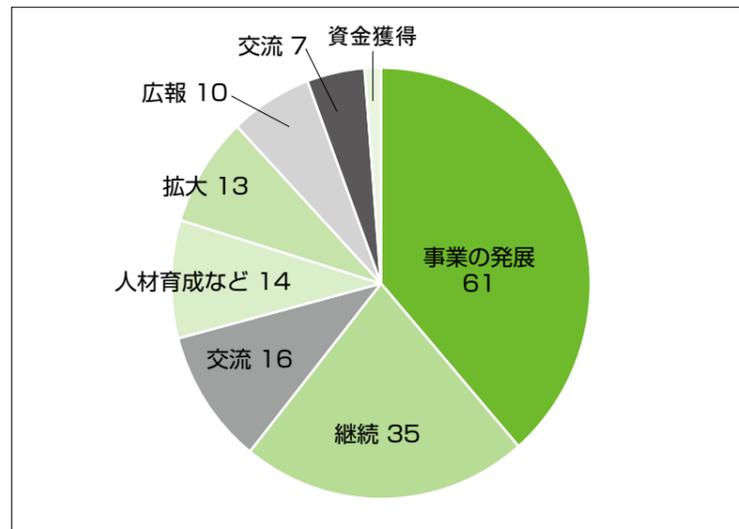
- 〈内訳〉
- 目標値(34)
事業(7)
集客(7)
周知(5)
人材確保(4)
件数(3)
実施回数(3)
資金(2)
場所(2)
制作物(1)
 - 充実度(9)

⑧達成できなかった理由

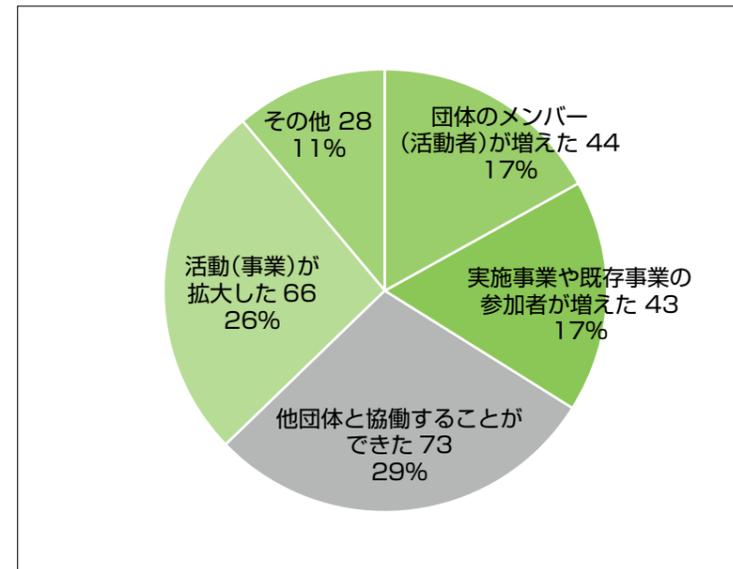


- 〈内訳〉
- 内部(28)
時間がなかった(8)
人材不足(5)
準備不足(5)
周知・集客不足(4)
取り組むのが遅かった(2)
その他(4)
 - 外部(7)
 - その他(5)

⑨事業を実施して今後取り組みたいことはありますか



⑩基金の効果(複数回答)



振興基金の交付を受けたことで得られた効果について	合計	内 訳		
		10事業	促進	区
団体のメンバー(活動者)が増えた	44	14	6	24
実施事業や既存事業の参加者が増えた	43	13	9	21
他団体と協働することができた	73	23	7	43
活動(事業)が拡大した	66	21	7	38
その他	28	6	6	16
特になかった	0	0	0	0
合 計	254	77	35	142

◆基金の効果(自由記述)

- ・異業種、異職種で交流ができたこと
- ・ボランティアセンターの人とお話
- ・地域の生涯学習フェスティバルで報告を行なった
- ・母子・父子家庭と地域のつながりを強めることができた
- ・中央区子ども子育てプラザとの交流が活発化
- ・継続して事業が実施出来ているため、研修のプログラム内容や組織体制が強化されてきている
- ・学生の事業参加の使命感が向上している
- ・ホームページや名刺等、広報ツールが作成できた
- ・主として広報にお金を使わせて頂いていますのでよりたくさんの方に知って頂いていると思います
- ・環境整備ができた
- ・食器をいいものにできた。余裕を持って活動できた
- ・録音機材が整い、活動時間の短縮につながった
- ・備品整備により、見栄えと安全が確保できた
- ・交通費については個人の負担が減った→活動の継続につながる
- ・用紙、製本代、印刷作業に来る為の交通費の負担が減った
- ・新たな事業を起こす強力な後押しとなった
- ・会費では補えないところへ補充しています
- ・団員の活動への姿勢が活発化した。
- ・資金面で必要以上の不安を抱えることなく活動する事が出来た
- ・講座を受ける事により、メンバーの意識が上がり、演じ方に広がりが出てきたように思う
- ・ニーズの再確認
- ・参加者は増えた
- ・安定した活動が出来た
- ・区役所や区社会福祉協議会の協力頂き、事業が活性化した
- ・事業の必要性について関係機関に周知理解が深まった
- ・活動を継続する事ができた
- ・実際にやってみて、気づくことが多く、今後の活動にいかせられる

大阪市ボランティア活動振興基金 助成内容一覧

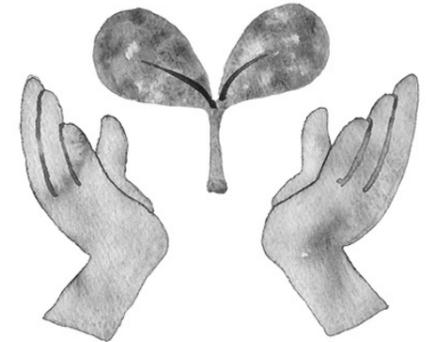
※平成31(2019)年度の募集要領を参考で掲載しています。

	事業名	事業内容
リーダー育成	1 これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 企業や商店、勤労者等が中心となって行う福祉ボランティア活動団体支援事業【事業助成】	企業や商店・勤労者などがリーダーとなり住民の参画を得て、住民の交流のきっかけとなる福祉活動支援
	2 これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 居場所の運営ボランティア養成支援事業【事業助成】	地域の福祉課題の解決を目的とした「居場所」の運営ボランティア養成支援
参加しやすい仕組みづくり	3 これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 社会参加情報システムの構築支援事業【事業助成】	社会参加しづらい人等を対象とした、情報ネットワークシステムやアプリ等の構築支援
	4 これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 社会参加の空間整備支援事業【団体助成】	地域の福祉課題の解決を目的とした、誰もが利用しやすい居場所づくりの改修整備支援
	5 これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 生徒・学生の(福祉)ボランティア活動支援事業【事業助成】	地域で(福祉)ボランティア活動を行う、生徒・学生で構成された「ボランティアクラブ」等が取り組む学校外活動や、生徒・学生が主体的に行う(福祉)ボランティア活動支援
ボランティア活動の拡大	6 ボランティア活動促進事業【団体助成】	複数区で福祉ボランティア活動を行う団体の活動支援
	7 これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 災害時の活動者養成事業【事業助成】	防災を含めた災害に関するスキルを身につけるための養成研修等の開催支援
	8 地域福祉・市民活動協働推進事業【事業助成】	地域の福祉課題の解決を共通の目的とし、複数の団体が主体となり、異なる強みや得意分野を活かし取り組む事業の支援
	9 地域福祉的な非営利法人支援事業 初動期支援【団体助成】	活動環境の整備や運用面で助言を求めるコンサル料など、運営基盤整備の支援
	10 地域福祉的な非営利法人支援事業 コミュニティビジネス支援【事業助成】	地域の福祉課題の解決を目的とし、地域の資源や人材を活かしながら、ビジネスの手法により継続して取り組む事業
	11 これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 区の実情に応じた助成事業【団体助成】	各区・各地域の現場ニーズに応じた取組への支援
	12 基金事業	本会が提案する助成を必要とする事業

申請から交付・報告までの流れ

※平成31(2019)年度の流れを参考で掲載しています。

- 1 助成金情報(要領)を入手します。(3月～4月上旬)
 - ・ 来年度の事業計画を立てます。
 - ・ 大阪市ボランティア・市民活動センター窓口、ホームページ、各区社会福祉協議会などから要領を入手します。
- 2 申請書を期日までに提出します。(※平成31(2019)年度は4月12日(金)締切)
 - ・ 要領をよく読み、合致する事業に応募します。
 - ・ 提出後に不備・不明な点があった場合、再提出をお願いする場合があります。
- 3 審査があります。(6月)
- 4 交付セレモニー(7月)
- 5 助成金交付(7月)
 - ・ 審査に通った団体に郵送で通知します。通知文に従い請求をします。
- 6 活動します。
- 7 活動の終了後、活動報告書を提出します。
 - ・ 活動内容は必ず記録しておいてください。
 - ・ 領収書やレシートは必ずもらっておいてください。(不足した場合は返金になります。)



ご存知ですか? “ボラ基金”
 平成29年度 大阪市ボランティア活動振興基金・報告
 発行：平成31年3月
 社会福祉法人大阪市社会福祉協議会
 大阪市ボランティア・市民活動センター
 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町 12-10
 大阪市立社会福祉センター内
 TEL：06-6765-4041
 FAX：06-6765-5618
 代表 mail：ocvac@osaka-sishakyo.jp
 URL <https://ocvac.osaka-sishakyo.jp/kikin/index.html>

【問合せ・申請窓口】

大阪市ボランティア・市民活動センター

(受付時間：月・水・金 9：30～20：00、火・木・土 9：30～17：00)

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町 12-10 市立社会福祉センター 1 階

TEL:06-6765-4041 FAX:06-6765-5618

代表メール：ocvac@osaka-sishakyo.jp

大阪市ボラ基金

検索

【アクセス】

最寄駅：大阪メトロ谷町線・千日前線「谷町九丁目」駅

または、近鉄電車「大阪上本町」駅 11 番出口から東へ250m



◆大阪市社会福祉協議会のホームページから、民間の助成金を検索することができます
<http://www.osaka-sishakyo.jp/jyoseikin/>

◆毎月 15 日発行（8 月 1 月を除く）、『ボランティア・市民活動情報誌 COMVO（コンボ）』には、ボランティア・市民活動に関する新鮮な情報や助成金情報などを掲載しています



*助成団体については、団体名と事業内容を大阪市ボランティア・市民活動センターホームページで公開します。
*申請書類等で得た個人情報は、本事業以外には使用いたしません。